

細江カトリック教会だより 5月号

〒750-0016 下関市細江町1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura.ne.jp>

復活の光の中で

4月末からの10連休がようやく終わりましたが、皆さまはどのように過ごされたでしょうか。家族の皆さんとの懐かしい時を持たれた方、様々な行事に疲労ばかりが蓄積された方、連休とは全く縁のない仕事に明け暮れた方、病床上で一日も早い回復を祈っておられた方もあるでしょう。

今年は、健康第一にと、毎朝のミサ以外は、ゆっくり過ごすことになりましたが、教会はちょうど復活祭を祝ったばかりのとき、おのずと信仰の中心である主の復活の意義をあらためて考える貴重な時でもありました。長い四旬節があって、聖週間を迎え、主の苦しみと死に与って復活をお祝いする。受難があって復活がある。ことの順序としてはその通りですが、実は、復活の体験があって、はじめてすべてのことに光が当てられ、主の受難も、生前のお言葉も、振舞いも、人を驚かせる癒しの業も、すべてが新たに弟子たちの心に蘇って来たのです。そして、あれほどのお苦しみが、実は、父なる神への愛と忠実、そして、わたしたち一人一人への溢れる愛に貫かれた捧げであったことを、復活の光の中で悟らせていただいたのです。

復活祭から日が経つにつれ、それを過去のことで記憶の奥にしまってしまうのではなく、むしろ、主の復活を体験した弟子たちと同じように、

日々、復活の光と喜びのうちに生き生きとよみがえらせてゆけますよう祈りましょう。

作道 宗三 神父

主のご復活

おめでとうございます！

主とともに新しい出発を始め、感謝を込めて細江教会と彦島教会の皆さまにわたくしの召し出しを紹介させていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

わたくしはイエズス会の洗礼者ヨハネ・ファン・デュック・ディン神父です。1983年に生まれ、6人の兄弟の中の長男であり、田舎にあるカトリックの家庭の中で育ちました。2002年からはイエズス会の志願者としてイエズス会の生き方を体験しながら、ホーチミン市にある大学に通って二年間ほど英語を学びました。なぜイエズス会に入ろうと思ったのかと言いますと、まずイエズス会における三人の若い聖人（聖スタニスラオ・コストカ、聖アロシウス・ゴンザーガと聖ヨハネ・ベルクマンズ）の影響で、そしてまた「活動における観想」において何処に行っても、何をしても、「神のより大いなる栄光のために」というイエズス会の霊性が大好きなので、その会のことを調べ始めました。イエズス会を知る前に、高校生の時、学費のために三年間のほぼ毎日、ベトナムにある教区修道会クイ・ニョン十字架の愛の会、ゴーティ修道院で働いていました。そ

の時、「神にできないことは何一つない」(ルカ 1:36) という御言葉が心の中で響き、同時にシスターの方々から「修道者になったらどう?」、あるいは「ディン君、君は司祭になったらのではないか」という呼びかけは、何回も繰り返して私の耳に入りました。そのおかげで、どこかの修道院に行ってみたくらいと思い、幸いイエズス会と出会いました。

2006年5月31日に聖母マリアの訪問の祝日に当たり、喜びにあふれてイエズス会ベトナム管区の修練院にて初誓願をたてました。その後、神学院で3年間哲学の勉強をし、日本に派遣されました。

七年前細江教会で司牧の実習の経験を一年半積んでいくうちに、百瀬神父様とリントホルスト神父様をはじめ、そして細江教会の皆さまのおかげで、教会で働きたいという望みが生まれてきたのです。皆さま、大変お世話になりました。これは本当に恵まれた中間期だと思っております。教会で働いてみて、喜びを感じました。司牧の現場で信者さんと話すと、深いつながりができたのです。

2017年9月23日に、東京の聖イグナチオ教会にて司祭叙階の恵みを受けました。今回また細江教会と彦島教会に派遣されて、心から感謝いたします。

初めて司祭として司牧をさせていただきます。教会の皆さま、どうぞ私がこの使命を果たすことができますようにお助けとお支えをお願い申し上げます。

先日のご復活祭にベトナム語のミサを細江教会にて初めて捧げることができました。日本人の方々を含めて、約60人がその復活のミサに参加しました。これからベトナム人の実習生や留学生だけではなく、若い者がますます教会

に来てほしいという希望をもって、教会の皆さまと協力していきたいと思っております。

ディン 神父



*4/21 14:00 ベトナム語のミサ

聖週間と復活祭

*枝を持つ信徒への祝福と
枝の主日(受難の主日)ミサ



*聖木曜日(最後の晩餐)

互いに足を洗わなければならない・・・



・・・「互いに愛し合いなさい」と呼びかけている主に、私たちはこの場面でもその思いを感じていかなければと。

*聖金曜日（主の受難）

キリストの受難と死を思い起こす
受難の祭儀。

「見よ、キリストの十字架、世の救い」



・・・その後、十字架の礼拝

*復活の聖なる徹夜祭



復活のろうそくに火を灯す・・・

「この夜 キリストを信じる全世界の人々は罪の暗闇から解放されて救いの恵みを受け 聖霊の交わりに加えられる この夜・・・」と復活賛歌が続きます。



洗礼式はなかったけれど、私たち信者は自らの洗礼を思い起こし、神の子として生きる決意を新たにします。

*復活の主日の祝賀会



復活の喜びに与り、楽しいひと時でした。私たちは教会の母であるマリアさまの慈しみの心と主の受難を耐え忍んだ心を持って教会を支えていかなければ・・・と感じました。（こ）

地区便り II

中央地区

4月27日に白濱開君と彦島教会の本島萌さんが結婚しました。

開君は、山口地区の青年会長を務めてくれたこともあり、二人はどこで出会ったんだろうと思いを馳せています。

開君の亡き母由香利さんが学生会を私が日曜学校を担当している時は、お互い相棒のように頼りにしていました。由香利さんが広報誌に学生会便り書いていた事を思い出し、読み返してみると、次回は「オープンハートじゃいられない」ですと、タイトルが予告されていました。翌年になって載った内容は炬燵を囲んでの白濱家の会話でした。ドラマを観ていて多分、信君が「心ってどうやって開けばいいんか」と聞いたらしく、おまけに「心なんか開きたくも無いし・・・」その言葉に胸をつかれたという内容でした。でも、だれかに自分のことを分かっしてほしいと思う時は、もしかしたら神さまがあなたの背中を押しているいる時かもしれません。

温かいことばが添えてありました。

“開”と名付けたのも、こんな思いがあつてのことでしょうね。

昨年、信君の方が先に新婚生活をス

タートさせ、この度、開君の結婚となり、喜びはひとしおです。

しかも、二つの教会の喜びの架け橋となるようなお二人の結婚を心待ちにしていました。

林 恵子

結婚式 4/27 (土) 11:00

白濱開さん&本島萌さん
結婚おめでとうございます



*山口教会から
この日のために駆け
つけてくださった百瀬神父さまの司式
で結婚式が行われました。



*少し緊張気味の新郎の開さんを前に、
作道神父さまが祝福の乾杯！
これからのお二人のために皆さまの
お祈りをお願いします。

新しい講座のご案内

①祈りを深める (第1、第3 木曜日)

テキストを参考に、聖書の中に表わ
れる祈りについて学び、各自の祈り、
共同体として祈りを深める

②聖書を読む (第2、第4 木曜日)
マルコ福音書を中心に学びながら、
み言葉に対する理解を深め、各自の
信仰を見直し、深める機会とする

*6月から開催

講師は作道宗三神父さま

投稿

『あなたにとって平成とは？』

- ・平成の終わりは人生の節目でした。
(無記名)
- ・住み慣れた関西を後にし帰国したのが平成5年の暮れでした。弟、母、夫、父、姑と次々に旅立ち、寂しさを噛みしめる日々でした。ひとり暮らしになってからは外国旅行を二十数回、心躍る楽しい体験ができた感謝の時を過ごしました。

胃癌、圧迫骨折3回と身体的な試練もありましたが何とか復活いたしました。

昭和と同様に悲喜こもごもの時代だったといえます。(梶谷紀子)

*「あなたにとって平成とは？
どんな時代でしたか？」

そして

「新しい時代へ」のメッセージを。

*あれこれ、いろいろ、言いたい
知りたい事、記事にしたいこと
あれば投稿してください。

広報委員会より

